

課題名	12 京築・筑豊地帯における果樹の生産安定技術の確立	分類	②
	(1) ユズの導入系統の特性		
試験研究年次	58～2年(完了)		
I 目的			
<p>ユズは隔年結果性の強い系統が多く、また、果実にかいよう性虎斑症が発生する等により生産が不安定であるので、高知県で優良とされている系統を本県で選定して、生産安定のための資料とする。</p>			
II 試験方法			
<p>1 供試系統 高知県系統：坂本系、前田1号、畑山本村系 55年定植、58年から各系統7本供試</p> <p>2 供試場所 当场福原試験地</p> <p>3 栽培方法 (1) 栽培法 慣行 (2) 整枝法 開心自然形 (3) 栽植距離 5m×5m、40本/10a</p> <p>4 調査方法 (1) 収穫時期 果実が7～8分着色した時期とした (2) 虎斑症発生程度 0(病斑なし)～4(果面の1/2以上)の5段階評価</p>			
III 主要成果の概要			
<p>高知県から導入した3系統は、いずれも収量、品質及び虎斑症の発生等に問題があるので、積極的に導入出来ない。</p> <p>1 坂本系は収量が多いが、隔年結果性が強く、虎斑症発生程度も高い。</p> <p>2 前田1号は果汁が多く、種子数は少ないが、隔年結果性が強く、収量が低い。虎斑症の発生も多い。</p> <p>3 畑山本村系は、収量は安定しているが、果汁が少なく、虎斑症の発生程度も高い。</p>			

IV 主要成果の具体的データ

第1表 生育及び収量調査

(61～2年平均)

系統品種	発芽期	満開期	収穫期	収量	収量変動係数 (CV)
	月 日	月 日	月 日	kg/樹	%
坂 本	4. 11～19	5. 20～26	11. 21～22	16.0	47
前田1号	4. 9～20	5. 22～26	11. 11～21	9.6	47
畑山本村	4. 8～14	5. 16～25	11. 5～21	13.7	27

第2表 果実品質調査

(61～2年平均)

系統品種	1果重	果形指数	果汁歩合	種子数	糖度	酸度	虎斑症程度
	g	横/縦	%	個/果	%	%	
坂 本	132	121	20.2	32	8.9	3.97	2.9
前田1号	134	124	22.1	28	9.2	4.33	1.7
畑山本村	131	124	17.5	34	9.2	4.39	1.8

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 ユズ導入のための資料として利用できる。
- 2 普及に当たっては、ウイルス検定が必要である。

VI 今後の研究上の問題点

優良な系統の弱毒系の探索及びウイルスフリー化が必要である。

VII 資料名

58～2年度 福岡県農業総合試験場豊前分場果樹研究室成績書